

# 平成29年度 町政功労者表彰

総務課 庶務人事係 ☎02-6322

11月2日(木)に、平成29年度町政功労者表彰式が役場で行われました。富士見町の振興に尽力され顕著な功績のあった方や公益に寄与された方、6名の方が表彰されました。



【写真】  
前段右から2人目  
小池 一夫さん  
前段左から2人目  
小林 國廣さん

◆小林 一彦 (桜ヶ丘)  
町長として2期8年間在職し、町の振興・発展に尽力された。

◆小林 國廣 (小六)  
民生委員として12年間にわたり地域社会の実情を把握し、支援が必要な方の相談に応じるなど社会福祉活動に寄与された。

◆藤沢 昭和 (東京都)  
私財をふるさと納税制度(ふるさとみらい寄附金)として町に寄附された。

◆(故)北原 温子 (瀬沢新田)  
保護司として25年間にわたり多くの人々の更生を助け、犯罪のない明るい地域社会づくりに寄与された。

◆小池 一夫 (下葛木)  
保護司として17年間にわたり多くの人々の更生を助け、犯罪のない明るい地域社会づくりに寄与された。

◆小林 千保子 (木之間)  
保護司として12年間にわたり多くの人々の更生を助け、犯罪のない明るい地域社会づくりに寄与された。

(順不同・敬称略)



## 中学生 広島平和教育研修



富士見中学校2年 小林 なのは

### 広島平和研修で感じた事

七十二年前の八月六日、八時十五分広島に原爆が落ちた。それから月日がたち同じ場所に私はいた。

はがれ落ちたレンガ、むきだしになった鉄骨。それを見た時、私の体の中がふるえる様な感じになった。その姿、存在するだけで七十二年経った今も、原爆の力の大きさや恐ろしさを私たちに語りかけてくる。その存在の大きさにただ圧倒された。

平和記念公園についていた時、すぐに空気が変わったのを感じた。たくさんの人が集まっているのにもかかわらず、シーンと静けさの中にセミの声だけが響く空気の中に、多くの人の平和への強い思いを感じた気がした。

原爆の子の像のところには多くの人々が作った千羽鶴が飾られている。そこには人それぞれの平和への願いが書かれている。その言葉は一つ一つが重くて私の胸にもジーンとくる感覚があった。私が思っていた以上にたくさんさんの平和への願いがあり、とても感動した。

三日間をとおして、広島に平和への願いが届けられたと思います。自分の目で見た耳で聞いたりするこ

とで学習した原爆による悲惨さや、平和への願いを、富士見中や富士見町の皆さんに伝えていきたいと思えます。

8・6証言のつどいでは被爆をした木村さんのお話を聞きました。木村さんは原爆が落とされた時私たちと同じ年頃で、両親と妹を原爆によって亡くしました。大切な人を亡くしていながら妹や弟のために苦勞した木村さんの話を聞いて尊敬すると同時にすごい人だと感じました。原爆の影響で苦勞して生きてきた木村さんの話を聞いて私はとても恵まれていると思いました。

今回の研修で私の体や心が動くような瞬間が何度もありました。その中には原爆の恐ろしさ、平和への願い、広島の人々の原爆への関心がありません。自分に衝撃をあてた事一つ一つを忘れずにいたいのです。被爆した木村さんは「今の世代を守ってほしい。」と言っていました。その願いを叶えるためには小さな幸せを大切にすること。大切な人に感謝の気持ちを伝える。そんな事をすれば「今の世代を守る事」につながると思いました。

